

2019年8月30日

パナソニックが「RE100」※に加盟 100%再生可能エネルギーによる事業運営を目指す

パナソニック株式会社(代表取締役社長:津賀一宏/以下、当社)は、事業活動で使用する電力を100%再生可能エネルギーにすることを旨とする国際的なイニシアチブ「RE100」に加盟しました。2050年までにグローバルで使用する電力を100%再生可能エネルギーに切り替えるとともに、CO₂排出ゼロのモノづくりを目指します。



環境・エネルギーを中心とした社会課題に対する関心がグローバルで高まる中、当社は、環境経営における長期ビジョン「パナソニック環境ビジョン2050」を2017年6月に策定し、2050年に向けた環境経営の目指す方向を明確に定めて活動を推進しています。

その活動の一つ、持続可能な社会を目指した事業推進の位置付けとして、工場の操業においてCO₂を排出しない「CO₂ゼロの工場づくり」をグローバルで目指して取り組んでいます。具体的には、工場の省エネルギーの取り組みに加え、再生可能エネルギーの活用として、自社拠点への太陽光発電システムをはじめとする再生可能エネルギー発電設備の導入や、日本、欧州、米州のCO₂ゼロモデル工場における100%再生可能エネルギー由来電力の調達を推進しています。

CO₂ゼロ工場の実現には、再生可能エネルギーの活用拡大が不可欠です。当社は、グローバルで再生可能エネルギーの活用拡大を目指す「RE100」へ加盟することで、再生可能エネルギーのさらなる活用に取り組んでまいります。

今後は、2021年に向けた環境行動計画「グリーンプラン2021」の目標の一つとして「再生可能エネルギー利用拡大」を掲げ、自社拠点への再生可能エネルギー発電設備の設置による再生可能エネルギー導入や、再生可能エネルギー外部調達を、さらに強化していきます。併せて、CO₂ゼロモデル工場をグローバル各地域で実現し、地域特性に応じた再生可能エネルギーの活用拡大を検討していきます。

当社は、このような活動を通して、「環境ビジョン2050」で目指す、持続可能な社会を目指したCO₂を排出しないモノづくりを着実に推進してまいります。

■ Sam Kimmins (Head of RE100, The Climate Group) 氏からのメッセージ

「パナソニックの成功は、私たちの未来を決定づける様々なテクノロジーを発展させてきたことに基づいています。RE100に加盟し、2050年までに100%再生可能エネルギーを活用することを約束することで、パナソニックはエネルギー情勢が進化しているという力強いメッセージを発信しています。パナソニックは、より良いエネルギーシステムを目指す企業のグローバルな動きに加わろうとしています。それは、事業、顧客、環境にとって有益だからです。」

※RE100:気候変動に関する国際NGO「The Climate Group」が、CDPとのパートナーシップのもと運営する国際的なイニシアチブ。事業活動で使用する電力を100%再生可能エネルギーにすることを旨とする企業で構成され、グローバルで191社が加盟(2019年8月現在)

以上

プレスリリースの内容は発表時のものです。

商品の販売終了や、組織の変更等により、最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。